

「応援します!! あなたの農業」

# あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 33号 平成 22年 12月

発行元 福島市中町 8 番 2 号  
財団法人福島県農業振興公社  
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

## 鈴木秀典さん(東白川4Hクラブ)が東北農政局長賞を受賞!

～平成22年度「第41回東北農村青年会議福島大会」～

東北農業青年クラブ連絡協議会と東北農政局の共催による『第41回東北農村青年会議福島大会』が、平成22年11月4日(木)～5日(金)の2日間、福島市の飯坂ホテル聚楽で開催されました。

大会は、農業青年や関係者など343名が参加し、東北各県の代表者による『プロジェクト・意見発表』や、「農業を楽しもう!若い農業者が・女性がもっと活躍できる農業にするために」をテーマにした『意見交換会』、米粉と本県産の果実を使った30mロールケーキ及び会津の郷土料理こづゆを製作する『料理交流会』等を通して東北地域の若い仲間が友情と絆を深めました。

『プロジェクト発表』では、本県代表で東白川4Hクラブの鈴木秀典さんが発表した「耕畜連携による稲わら活用で稲作農家の所得創出」が、最優秀賞(東北農政局長賞)に輝きました。

審査講評では、「若い力で今日的課題の耕畜連携について、クラブ員を中心に稲わら生産組合を設立し、近隣農家も巻き込んで稲わらを収集することにより、クラブ員の畜産農家に販売する仕組みをつくった。そして、稲作農家と畜産農家の所得向上を図ったことに感動を受け、その取り組みを高く評価した。今後とも地域農業の担い手として更なる活躍を期待する。」と、プロジェクトの活動

成果に対して称賛の言葉がありました。



全国大会出場の抱負を述べるプロジェクト発表で最優秀賞(東北農政局長賞)を受賞した鈴木秀典さん

鈴木さんは、来年3月上旬に東京で開催される全国大会に東北代表として出場しますが、「耕畜連携の活動が広められるよう、全国大会の発表を頑張ります。」と、力強く抱負を述べました。

また、『意見発表』では、須賀川4Hクラブの鈴木正志さんが、「変わった野菜を食卓に」と題し、寿司職人としての経験を活かして消費者からの反応や声を取り入れた農業経営を行いたいとの内容を発表しました。残念ながら入賞を逸しましたが、新しい感性と視点により自家経営の発展とクラブ活動での活躍を期待します。

## 農地調整課

### 宮城県大崎地域の方々が 公社版集合事業長坂地区 「一集落一農場」を研修

去る10月29日（金）（社）宮城県農業公社及び、宮城県、並びに大河原方部の市町、土地改良区等の、基盤整備事業、農地集積事業担当者の約30名が、猪苗代町の「長坂地区」「農事組合法人ニューわくわくファーム」を研修に訪れました。

研修には、町土地改良区を中心に、長坂地区関係者、町農林課に対応いただき、当公社も、「公社版集合事業」による農地の利用集積（利用権設定、農作業受委託）を全面的に支援している立場から参加いたしました。

長坂地区は、平成17年に経営体育成基盤整備事業実施地区として採択され、受益面積約21㍊（田19ha、畑2h）で今年度事業完了を予定している地区ですが、平成20年度福島県豊かなむらづくり顕彰事業、むらづくり部門優秀団体表彰を受けた地区でもあります。

特に、事業要件である担い手育成において、旧体系の「個々の経営」を見直し、「一集落一農場」を目指し、まず平成17年には、地区の合意で選定された5名の農業者が組織化を図り、任意生産組織を立ち上げました。

これを皮切りに、平成18年では特定農業農業団体へ移行し、最終的には平成21年農業生産法人「農事組合法人ニューわくわくファーム」の設立と特定農業法人化へと発展し、現在では、地区内水田の全面積が集積され「一集落一農場」が完成しています。

集落の成り立ちや地域の特徴、基盤整備事業実施に至った経過や改善組合の活動における集積や生産調整とりまとめの苦労談は地区の役員から、担い手の「ニューわくわくファーム」からは、法人化に当たり、「資本金の制約」、「従事分量配当」を重視し農事組合法人を選択したことや運営状況、今後の展望等について説明がありました。



当公社は、長坂地区におけるブロックローテーションによる集積の取り組みについて、説明や報告を行いました。

研修者は、これらの説明等を真剣に聞き入り、質疑や意見交換など活発に行い、有意義な研修となりました。

営農改善組合長から、「担い手である法人の経営安定化、現組合員の高齢化に伴う新規組合員の加入促進」が今後の課題であるとの報告をもって研修の終了となりました。

### 平成22年度東北・北海道農業公社 後期ブロック会議が開催されました

去る平成22年10月21日～22日、福島市内のホテルにおいて、「平成22年度東北・北海道農業公社後期ブロック会議」が開催されました。



会議は、北海道と東北6県の農業公社及び、福島県、東北農政局、全国農地保有合理化協会の関

係機関など総勢30名により、農地保有合理化事業をめぐる情勢や問題点、事業に関する推進方策や要望事項等を議題に討議が行われました。

まず、福島県公社が主催であることから、福島県農林水産部農業担い手課長から歓迎の挨拶を頂き会議が開会されました。

今回は、農業経営基盤強化促進法の一部改正により設立された農地利用集積円滑化団体と農地保有合理化法人との連携方策についてをメインテーマに、各県の取り組み状況や問題点について意見が交換されました。

## — 育成センター —

### 『第20回 ふくしま農見本市』で消費者と交流！

#### ～24時間テレビ「愛は地球を救う」の協賛イベント～



元寿司職人が消費者に調理法を説明！

平成22年8月29日（日）、福島県農業青年クラブ連絡協議会主催の『ふくしま農見本市』が福

また、東北農政局からは農地保有合理化事業の23年度予算概算要求に係る情報提供が、全国農地保有合理化協会からは、昨年から今年にかけて全国の農業公社で行われた会計検査院の検査結果や農地保有合理化事業をめぐる情勢等について報告がありました。

各県からは、予算削減に対する対応方策の要望や、厳しい情勢の中での農業公社が抱える問題点、これからの事業推進方策等について忌憚ない意見が交わされ有意義な会議となりました。

島市佐原のあづま総合運動公園の体育館前広場で開催されました。

今年度もFCTの『24時間テレビ愛は地球を救う』に協賛し、昼前には農見本市の様子がテレビで生中継されました。

当日は、県内9クラブから約60名が参加し、モモ・ブドウ・キュウリ・トマト・パプリカ・花・古代米や、米粉・ジュースなどの加工品を対面販売し、多くの消費者と交流しました。

また、チャリティー募金活動の社会貢献や子供たちの餅つき体験など、気温35℃を超える猛暑の中、クラブ員は有意義な1日を過ごしました。

## 今月のコラム

もしもしカメよカメさんよ

我が家には、ミドリガメがいます。

ミドリガメは、体長3cm、鮮やかな緑色、とても愛くるしい動きをします。

思いおこせば、子供が幼稚園の夏祭りの際、持ち帰ったものでした。

ミシシッピーアカミミガメ、体長25センチ、深い緑色、耳のところにオレンジ色のワンポイント、鋭い爪、動きは鈍く、昔の怪獣映画を彷彿させます。

これが、8年後の姿である。とても愛くるしい

とは言えず、品格と威厳がただよっているようにも見えます。

最初は小さな昆虫ケースで飼育しておりましたが、今では大型熱帯魚が飼育できる水槽に主（ぬし）として生活しております。

性格は物静か、だっこされるのが嫌い、大食い、冬の時期はダイエットのため絶食をしているようです。

これからどれだけ成長するか心配なところですが、寿命比べでもしましょうか？



S. S

## 『 ”絆”を深めて！』

会 長 菊池 一裕

4月から会長を務めております菊池一裕です。

今年は絆を深め、さらに魅力ある活動を目標にしていますが、残念ながらここ数年、クラブ員数・クラブ数は減少傾向にあります。活気あるイベントや広報活動などを通じて、多くの方に参加を考えて頂く機会を作りたいです。また、現クラブ員が活動を主体的に取り組むことで、クラブとの繋がりがより強くなっていくと思います。

さて、11月4日、5日に「第41回東北農村青年会議 福島大会」が福島市の飯坂ホテル聚楽で行われました。年度をまたいでの一大プロジェクトで、前任の県連会長である室井崇実行委員長のもと、県内クラブ員全員がスクラムを組んで大会を作り上げました。

大会テーマには『変えるのはFのチカラ！』（fresh・farmer・female）を掲げました。若い農業人が新しいアイデアを出し合い、自ら行動を起こす。男女共同参画を進め、女性がもっと輝ける農業、魅力あるクラブ活動を目指していくことが、これからの新しい農業を築いていくきっかけになるのでは、という想いが込められています。

初日のプロジェクト発表では、本県の鈴木秀典さんが最優秀賞を受賞し、全国大会への出場を決めました。おめでとうございます！ その後、石川県の吉川香里先生による講演会、おいしい夕食を頂きながらの交流会と続きました。



福島大会を企画・運営した実行委員  
最前列向かって左から4人目が筆者

2日目はグループ討論から始まり、30メートルのロールケーキ作りなど、2日間全員が同じ時間を共有し、互いの絆を深めてもらえる内容にしました。準備段階からのわれわれのアツい気持ちが伝わったのか、例年を上回る多くの方たちに参加していただき、福島の魅力や存在感を存分に伝えることができたのではないかと思います。

そして、何よりこの大会に向けての準備や当日の運営を通して、お互いを信頼し、協力する意識一絆がさらに深まったものと確信しています。

他の県連事業では8月に福島市あづま総合運動公園で行った「第20回ふくしま農見本市」は、昨年同様24時間テレビとコラボレーションし、消費者の声を生で聴く良い機会になりました。

2月には「県農村青年会議—プロジェクト・意見発表」と「わらしべ長者的研修会」を同時開催する予定です。これから準備に追われる日々が始まりますが、『段取り8分』を胸に刻み、絆をより深められるような運営に努めていきたいです。

**編集後記** 私の住んでいる地域では、5～6年位前まで稲の刈り取り時期になると兼業農家が多いので、休日にはバインダーで刈り取りしたり、乾燥させるため棒掛けをする姿が多く見られましたが、最近は刈り取りを委託されたコンバインの姿しか見られなくなりました。私も兄弟やその子供たちと賑やかに農作業をしていた頃が懐かしく

思い出されます。S. M

お  
問  
い  
合  
わ  
せ

あて先 〒960-8681  
福島市中町8番2号 福島県自治会館8F  
財団法人福島県農業振興公社 総務課  
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277  
URL <http://www.fnk.or.jp>